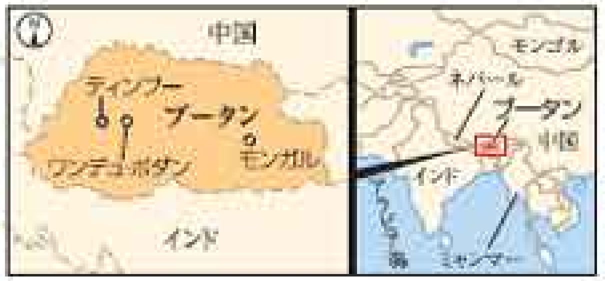
もの知り こどもタイムズ
こどもタイムズ編集部　FAX 092(711)5564　kodopon@nishinippon-np.jp　facebook.com/shiritai
学び　こどもっと　お楽しみ　えいGO

モンガル県の風景。山や谷が多いブータンの山奥では、おたがいの家が見えない村人同士が山びこを利用して「村の集会は何時から～？」「お昼からだよ～」と大声で会話することもあるという

今回の「世界のミカタ」はブータンです。面積は九州より少し小さく、人口は佐賀県とほぼ同じ小さな国で、伝統文化をとても大切にしています。日本語を学ぶ留学生のチミ・カンドゥさん(23)にふるさとの話を聞きました。（中野慧）

民族衣装で学校へ　伝統文化を大切にする国

留学生　チミ・カンドゥさんに聞く



チミ・カンドゥさん。胸元には尊敬するブータン国王が描かれた缶バッジをつけていた

チミさんは日本の着物に似た「ゴ」という民族衣装姿で現れた。女性が着るのはキラ。伝統文化を守るため、会社や学校、寺など公の場では民族衣装を着るのがルールだ。チミさんは「ゴのおなかの部分にはスペースがあるので、財布や食べ物、赤ちゃんを入れる人もいる。世界で一番大きなポケットですよ」と笑った。

伝統的な暮らしや考え方を大切にするブータンは、50年ほど鎖国でよその国とほとんど交流しない独自政策を取ってきた。テレビ放送とインターネットが始まったのはチミさんが3歳だったころ。「私はアニメ『NARUTO―ナルト―』と一緒に育った世代。他の日本のアニメやインド映画をたくさん見ました」

高校時代は洋服を着て友人と街で遊び、カラオケを楽しんだ思い出も。しかし、「伝統文化もしっかりと学んだ」と胸を張る。

学校では伝統文化の授業があり、仏教の寺での作法などを習う。放課後にお祈りの時間がある日も。生活の中で仏教の行事も多い。チミさんが懐かしがるのはお正月「ロサ」。「家族で集まってお餅を食べる。塩とバターで作るお茶『スジャ』をおじいさんが歌いながら作ってくれた」

チミさんが「GNHを知っていますか？」とたずねた。GNHとは「国民総幸福量」(Gross National Happiness)を短くした英語で、ブータンが大切にしている考え方。チミさんは「国づくりには経済は大切だけど、人のためには幸せが大切」と教えてくれた。「それにしても日本人は朝から晩まで働きますね。ブータン人は夜は家に帰って楽しんですが…」

お坊さんになるための修行中の子どもたち。仏教の儀式で使う楽器の練習をしている　＝ティンプー県北部

ワンデュ・ポダン県ポブジカの寺で毎年11月11日にあるトゥントゥン祭り。トゥントゥンとはオグロヅルのこと。写真ではお坊さんが仮面をかぶって踊っている

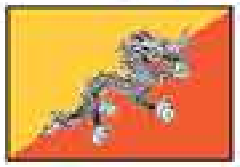
首都ティンプーの中心部では、警察官が手信号で車の行き来を整理している

（日本ブータン研究所・平山雄大さん提供、上の2枚も）

チミ・カンドゥさんの家族や親せきたち。中央の赤い布をまとった3人は親せきのお坊さんで、うしろに見えるのは仏教の寺

アスパラやマッシュルームが入ったカレースープ。ブータン料理には欠かせない唐辛子も入っている

世界のミカタ　ブータン



国名	ブータン王国
首都	ティンプー
面積	3万8394平方㌔㍍
人口	81万7000人(2018年推定)
通貨	ヌルタム
宗教	仏教が国の宗教。チベット仏教がほとんど。ほかにヒンズー教など
住民	チベット系のブータン人50%、ネパール系35%、先住民など15%
言語	公用語はチベット系のゾンカ語。ほかにネパール語や英語

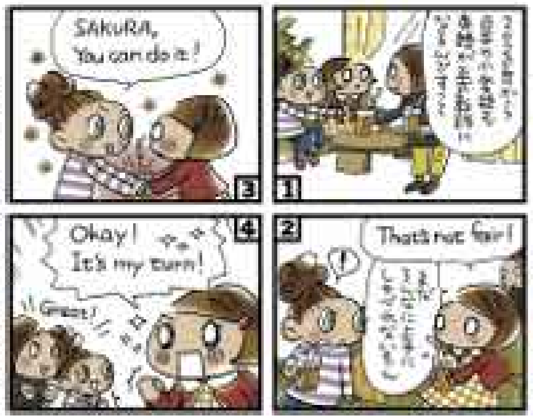
※共同通信社「世界の年鑑2019」より

ありがとう
བཀའ་དྲིན་ཆེ།
（ゾンカ語）カーディンチェ

こどものQ

ブータンの人たちはいろいろな言葉を話すと聞きました。チミさんは何語を話しますか？

家族や村の人と話すときは地元のモンガル県で多く話されるシャーチョプ語。他の地域の人との会話は公用語のゾンカ語で、学校の授業は英語。小学校のころはインド映画の影響でヒンディー語も少し覚えました。


SAKURA, You can do it!
That's not fair!
Okay! It's my turn!
Great!

（タイトルと漫画 ひのうえさき）

やってみよう！おうちで英語

ルール違反には「ずるい」　順番はしっかり主張しよう

みんなでゲームをしていたら、いつの間にか自分の順番が飛ばされていた…。そんなときは “It's my turn.”「ぼく（わたし）の番だよ」と主張しましょう。

もしも、だれかがルール違反をしたら “That's not fair.”「ずるいよ」って言えばいいです。

いろんな国の子といっしょにいるときに、こうやってしっかり主張できるのは、とても大事です。たとえばキャンプに行って、おやつの時間にただだまって見ていたら、自分の分はなくなっちゃうかもしれません。

大きい声で “It's my turn.” と言えたら、みんなも気付いてくれます。それでも番が回ってこなければ “That's not fair.” と言ってみましょう。

（児童英語教育者・松香洋子）

【聞いてトライ】動画の2人は、順番のことでケンカになってしまったのかな？　この言い方は両方ともいろんな場面で使えるよ。たとえば授業中に “It's my turn.” と手を挙げたり、給食で前の子のお皿は大もりなのに自分のはちょっとなときに “That's not fair.” と言ってみたり。ほかの場面も考えてみてね。

（動画提供・mpi松香フォニックス）

動画だよ！